

第18回福岡県男女共同参画表彰 受賞者

別紙

【社会における女性の活躍推進部門】

受賞者名	受賞理由
イエノコ株式会社 【太宰府市】 平成24年設立 建設業〔企業〕 	平成24年リフォーム＆リノベーション企業として創業。創業当時、子育てや介護に追われる女性社員がほとんどであったことから、仕事と生活の調和を第一に考え、ITを活用した在宅勤務制度を導入。フェイスブック、グループウェア及びテレビ会議システム等を積極的に活用し、不在時でも社員との打合せやコミュニケーションがとれるよう工夫を凝らし、働きやすい環境を実現。総務省「平成28年度テレワーク先駆者百選」にも選ばれている。 男性従事者が多い建設業界において、女性の活躍・女性の就業継続に尽力しており、社員8名のうち女性5名、管理職はすべて女性。業界におけるロールモデル的な存在である。 「女性が家族の真ん中でいつも輝いているクラシカタ」という理念を掲げ、ただ住むハコとしての家づくりではなく、その先にある理想的で豊かな暮らしづくりを目的に、女性の目線に立った「暮らし方」を提案。また、「家事セラピスト」の資格を有する社員が住まいの相談に乗り、モデルハウスにおいて片付けレッスンはじめヨガやネイルアートなど、暮らしをより便利に楽しくするイベントを開催。「暮らし何でも相談所」としてのつながりも生み出している。
イケア・ジャパン株式会社 IKEA福岡新宮 【糟屋郡新宮町】 平成14年設立 小売り(家具・雑貨) 〔企業〕 	イケア・ジャパン株式会社 IKEA 福岡新宮は、スウェーデン発祥のホームファインシングカンパニーで、企業として「生活と仕事を調和させることで得られる相乗効果・好循環」の実践に努めている。「多様な人材の受容と活用」「長期的な関係構築の保障」「平等な雇用の機会創出」を三本柱として、性別・国籍・年齢にかかわらず、誰もが自分らしく働けることを大切にしている。 特に、子どもを産み育てながら仕事を続けられるよう、育休からの復帰時の手当(基本給の3か月分)や、男性社員のパタニティリーブ(パートナーの出産による15日間の有給休暇)の完全取得、子どもの病気や病院への付き添いに対する特別休暇など、産休・育休からの復帰サポートに力を入れている。 2014年9月からは同一労働同一賃金制を導入し、パートタイマーを全員正社員化。本人のライフステージに合わせた柔軟な働き方を可能とするとともに、全員が無期雇用の正社員で、福利厚生も平等であり、長く安心して働ける職場環境を実現している。 キャリア形成も男女を問わず機会が平等に与えられ、女性の管理職比率は43%。 会社の理念である「より快適な毎日をより多くの方に」の実現につながるよう、社員が働きながら育児・介護をするための環境を整え、男女の性別にかかわらず能力を発揮するための均等な機会の提供、対等な評価や待遇を実践している。
株式会社 スターフライヤー 【北九州市小倉南区】 平成14年設立 航空運輸業〔企業〕 	株式会社スターフライヤーは、地域に愛される航空会社をめざし、「社員満足度を高めながら、高い顧客満足度と持続的な成長を実現すること」を指針に、男女がともに活躍し働きやすい職場づくりに努めている。 地上職と客室乗務員職間の職掌変更といった業界としては画期的な制度や育児休業や短時間勤務制度、フレックスタイム制度の導入など、出産・育児後も働き続けられるよう取り組み、働き方の選択肢を広げている。 また、自らが手をあげてチャレンジし、試験を受け登用される「管理職登用チャレンジ」制度を導入して、経営・管理レベルへの女性登用を促し、実際に女性管理職を増加させている。 さらに、社員が主体となって、育児休業後の職場復帰・両立支援のためのダイバーシティ＆インクルージョン推進プロジェクトを立ち上げ、育児休業中の社員の交流会の開催や、よりよい働き方の研究を行うなど、ライフステージの変化に応じて安心して働き続けられることができ、意欲をもって能力を発揮できる魅力ある職場づくりを目指している。 このような社員に対する取り組みが、高い顧客満足度にもつながっていると考えられる。

社会福祉法人 ひまわり会 【嘉麻市】 昭和53年設立 老人福祉・介護事業 〔企業〕 	社会福祉法人ひまわり会は、昭和 53 年に設立し、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、地域密着型特別養護老人ホーム等を運営している。管理職の女性比率は非常に高く、指導的立場に付く女性をさらに増やすため、各種研修への参加も促している。 約 20 年前、「育児休暇がほしい」というスタッフの一言をきっかけに、育児休暇や時短勤務制度の整備など働き方改革に着手し、現在是有給休暇の 100%取得を目標に、職場環境改善に取り組んでいる。(平成 30 年度は、取得率 90%超) このような取組みにより、出産・育児を理由に退職するスタッフはゼロを達成。このほか、パートから正社員への転換制度の導入や、高齢者の再雇用、障がい者雇用といった多様な人材の雇用に取り組んでいる。 また、一部業務の外部委託により、社員の業務量の軽減を図るなどの働きやすい環境を整えた結果、若い社員の定着率も高く、利用者への介護の質の向上にもつながっている。 「お年寄りにとって良いことをしたい。地域に支えられたので地域に貢献したい」という想いが、今日の活動に至っている。
--	--

【困難な状況にある女性の自立支援部門】

受賞者名	受賞理由
株式会社 インターアジア 【小郡市】 平成10年設立 在日外国人の就労支援 〔企業〕 	株式会社インターアジアは、平成10年に在留外国人就労支援事業会社として設立。同社を訪れる外国人女性が置かれている状況としては、エンターテインメントを目的とする興行ビザで入国し、日本で結婚・離婚しシングルマザーになるなど、悩みを抱えている人が多い。 このことから、同社では介護業界に新たな働き口を求める在留外国人たちを対象に、介護職員の基礎的な資格「介護職員初任者研修」を行っている。 受講生のほとんどが女性で、卒業生は6か国300人以上となっている。介護職員として必要な日本語と、介護の知識・技術の習得を同時に実施する研修は国内では珍しく、在留外国人同士の口コミを中心に、研修の応募希望者が後を絶たない。 社長の中村氏は、言葉も不自由で文化や生活習慣も違う外国人女性に対し、技能面だけでなく日常の相談事にも親身に対応し、生きていくための多面的なサポートを実施している。また、NPO法人等と連携して、このような困難な立場におかれている女性の支援に努めている。 これらの取組みが注目され、新聞・TV等の報道機関や、地元大学等からの取材を受け、活動の紹介がなされている。
古賀 稲子 【嘉麻市】 音楽講師 〔個人〕 	平成 16 年に嘉飯地区を中心に障がい児(男女)8 名が集まり、障がい者のためのミュージックサークル「Twinkle・Cats(トゥインクル・キャッツ)」を設立。自身の経験から、子どもの障がいを誰にも言えず、孤立しがちな母親を支えることが必要との思いで母親同士の交流にも力を入れている。 福祉施設での演奏活動や、毎年開催する「心のバリアフリー 愛いっぱいコンサート」では、母親たちに役割や出番を創出し、地域の大学生や、車椅子ダンス普及会、リズムダンス教室などと協力しながら取り組むことで、母親に子どもの成長を感じる機会を提供し、社会への参加を促している。さらに、子ども版「リトル・キャッツ」の発足や、マレーシア・プトラ大学との国際交流の実現など、活動の幅を広げている。 音楽活動を通して、障がい者や障がい児の成長を見守り、その可能性・表現力を高めるとともに、同じ悩みを抱えた母親の仲間づくりを支え、地域における自身の存在意義や社会とのつながりを実感してもらうことで、困難を抱えた女性の社会参画に大いに貢献している。

【女性の先駆的活動部門】

受賞者名	受賞理由
公益社団法人 福岡県医師会 【福岡市博多区】 昭和22年設立 〔団体〕 	福岡県医師会は、平成 18 年に「男女共同参画部会」を設立。院内保育の有無、女性医師が妊娠・出産した場合の対応、育休の利用状況、出産後の勤務体制等についての調査を実施。また、病院管理者など男性の意識改革にも取り組み、勤務環境改善や離職防止など、女性医師がいきいきと働くことが出来る環境づくりに努めている。 先駆的な取り組みとして、県内医科大学に出向いて医療(医師)分野における男女共同参画の重要性を伝えるとともに、実際に子育てをしている先輩医師が講演し、学生に対して出産後の支援体制を紹介することで、将来の不安の解消やキャリア形成、ワークライフバランスについて考える機会を提供。学生からは、結婚・出産後も医師としてのキャリアを形成したいと希望する声が多く聞かれるようになり、このような取り組みが全国に広がっている。 さらに、医師の働き方改革等を踏まえ、県内の病院における女性医師支援状況をまとめた冊子を平成 25 年度から作成・配布し、環境整備を促している。また、再就業を希望する女性医師と働き手を求める医療機関とのマッチングを無料で行ったり、従来の女性医師相談窓口に保育相談窓口を設置するなど、女性医師が意欲をもって地域医療の一翼を担えるよう、積極的な取り組みを行っている。
八女市の農業・農村の 活性化をめざす 女性の会 【八女市】 平成13年設立 〔団体〕 	平成 13 年に、八女市の農村女性の自主的な活動の場として設立。女性農業者が男性の補助的な役割ではなく、「農業を担う女性になる」ために、学習会をはじめ様々な取り組みを実施している。 農業用機械の操作方法を身に付け、中には大型重機オペレーターの資格を取得した者もあり、「女性だけでも農作物を生産できる」という実体験が、女性農業者の大きな自信となって、農業女性の自立につながっている。 また、子どもたちに農業に対して明るいイメージを持ってほしいという想いから、八女市内の小学校・保育所の児童との収穫体験や、学校給食への提供を行う食育活動を実施。参加した児童からは「自分たちの掘ったジャガイモを食べるのが楽しみ」という感想が届いている。 会の設立後、地域や行政との関わりや交流の機会が増え、女性農業者の社会進出も進んでいる。現在、農業委員やJA理事、八女市農業委員会会長などで活躍する同会会員の存在は、農業分野だけではなく、地域において「女性が役割を担う」、ロールモデルとなっている。 「農業者」「家族」「八女市に住む者」「社会に生きるひとり」として、男女の垣根を越えてお互いに認め合い、支えあっていく社会の実現のため、先駆的な活動をしている団体である。